



藤中詩織

平成28年度卒業生

東京外国語大学国際社会学部東アジア専攻

海外経験：アメリカ（ロサンゼルス）現地校

（小学校3年生～6年生・3年10ヶ月）

4年間アメリカにいたこともあり、英語を継続して学びたいと思っていました。江戸女の帰国生の取り出し授業は培った英語力を保つことができると思い、入学を決めました。江戸女は校舎が綺麗で、穏やかで優しい子が多いイメージがあります。私の学年での英語の取り出し授業は3人しかいなかったのですが、自分たちのペースで英語力を伸ばすことができました。中学3年間の勉強はそれほど大変ではなく、授業をしっかりと聞くだけで十分ついていきます。私は弦楽部に所属しており、私生活の8割が部活でしたが、勉強との両立は十分にできました。

高校に上がっても、部活中心の私生活にそれほど変化はありませんでした。4年生の冬に、英語が好きだったので語学系に進むことに決めましたが、進路を決定するにあたっては当時の担任の先生がアドバイスをくれました。私の6年間は部活といてもいいほど他には何もしていませんでしたが、部活に勤しんだ6年間があったからこそ今の自分があると思っています。仲間と辛いことも楽しいことも考えながら取り組んで共に乗り越えた毎日は自分の青春ですし、今でも役に立っている部分が大いにあります。

部の引退は6年の夏でしたが、受験勉強は5年の秋から少しずつ始めていました。部を引退して本格的に受験勉強が始まってからも学校ではピリピリした雰囲気は全くなく、クラスメイトは皆ON/OFFの切り替えがとても上手でした。先生方はどんな質問にも答えてくれて、進路で迷った際はアドバイスをくださいました。受験までのレールを丁寧に敷いてくれるので、自分だけで決定するのが苦手なわたしはとても助かりました。その人その人に合ったアドバイスをくれるのがとても良いと感じました。

江戸女は勉強も部活も自分次第でどこまでも充実させられる学校だと思います。オススメです。